

力をもとにも集まる三河 地盤を支える優良企業たち

愛知、岐阜、三重、富山、石川の中部5県の域内総生産は58・5兆円と全国の11%を占めるが、この中部地域の中の約6割が愛知県内から生み出されている。

愛知県は大きく「尾張」「西三河」「東三河」の3地域に分けられる。尾張と三河を隔てる境界線がその名も境川だが、同じ県内でも文化、風土、さらには方言まで地域色が異なる。製造品出荷額で見ると、名古屋市を含む尾張は約12兆円、これに対し三河は24兆円と2倍の規模を誇っている。一口に「物づくりの名古屋」といっても、それを支えているのは正確には「三河」である。

当然、地元では三河のことを「名古屋」とは言わない。名古屋が商業の街なのに対して、三河は製造業の街というイメージがあるが、かつてトヨタ自動車が製・販を分離していたのに、どこかよく似ている。三河では、名古屋駅前にそびえる「ミッ

ドランドスクエア」を「平成の名古屋城」と呼ぶ声もある。

トヨタ系は三河に集結 刈谷市の揺るぎない底力

トヨタグループを筆頭に、三河に本社や工場を持つ企業は多い。中でも集中しているのが西三河だ。

共立総合研究所によると、10年後に伸びるとされる「成長期待度ラ

ンク」で、Aランクに輝いたのが豊

田市。その名のとおり、トヨタ自動車が本社を構える都市である。

トヨタが新オフィスを構えたミッドランドスクエアは、トヨタにとって紛れもなく、国際営業も含めた販売・営業の中核拠点である。そのため、名古屋駅前にはトヨタの従業員が結集していると考えられがちだが、従業員6万8000人のうち、名古屋オフィスには営業部隊を中心に2400人程度と意外に少ない。

一方、豊田市には本社だけで約1万8000人、元町工場や堤工場など

働いている。1990年代に入り、

東海地震などの震災リスクを想定、九州や北海道にも生産拠点を分散させ始めたが、トヨタがこれまで豊田市偏在という構造は変わっていない。

企業の売り上げが伸び、そこで働く者が増えるに従い、地元にもたらされるメリットも大きくなる。

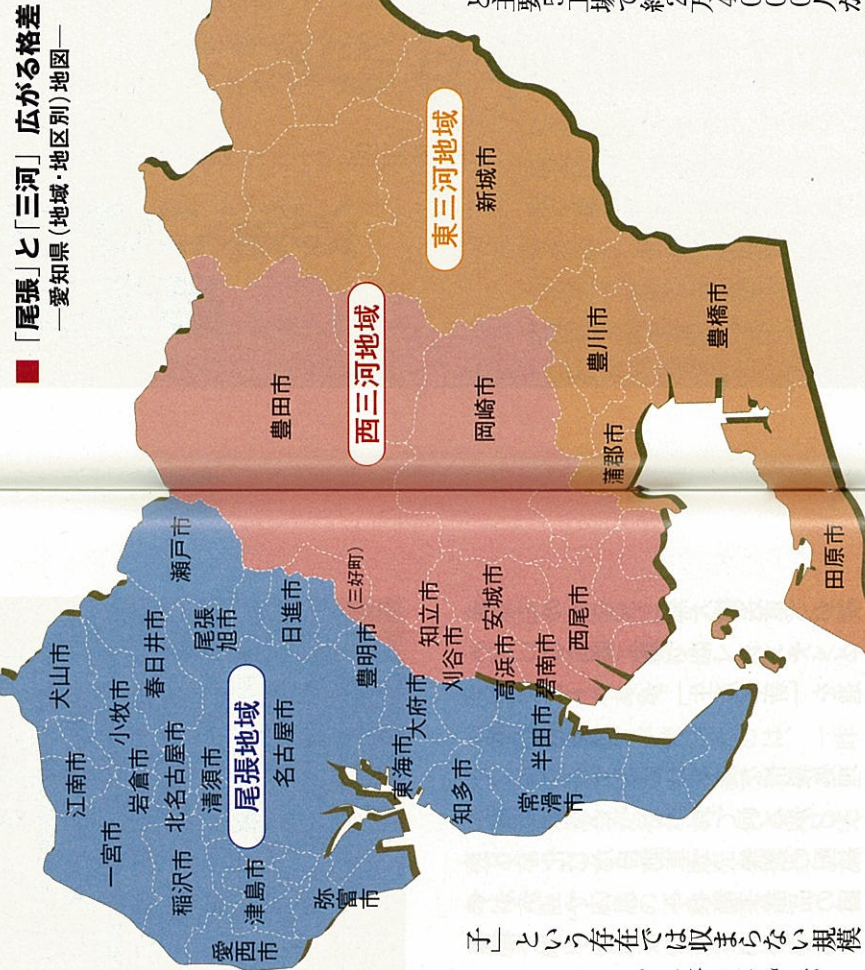
「勤め先が安定していれば、雇用不安はなく、出生率も高まる」と分析するのは江口忍、共立総研主任研究員。豊田市の場合、市民の7割前後が自動車関連従事者とされ、人口の社会増減数では3年連続の転入超過。製造品出荷額は12兆円を超え、全国でもトップクラスだ。

市の2007年度予算（一般会計）を見ると、歳入167.2億円のうち、法人市民税が43.0億円で25.7%を占める。一方、名古屋市では、これが10.5%にとどまっている。一説には、事業所税や固定資産税も含

めて、「豊田市の歳入の約6割をトヨタ関連が賄っている」(市関係者)とささやかれている。

その豊田市を上回り、Sランクと最高の成長期待度を獲得したのが、刈谷市だ。106、107年に掲載した東洋経済独自ランキングの「都市力データ」によると、刈谷市は「住みよさ」で県内首位、「財政健全度」では全国トップにランクされた。

刈谷の代表企業といえば、トヨタ系の自動車部品最大手、デンソー。デンソーの本社はJR・名鉄の刈谷駅から徒歩5分。トヨタの主要グループ会社のうち、駅から歩いていけるのは、このデンソーくらいしかない。トヨタ本社とは、高速道路でイ



ンターチェンジ三つ分、名古屋港までならわずか20分程度と、どこへ行くにもアクセスはいい。

今やデンソーも4兆円企業へと急成長した。「できるだけトヨタさんを刺激したくない」(デンソー幹部)との思いとは裏腹に、トヨタの「黒

子」という存在では収まらない規模になりつつある。地味な社風ながら、最近の業績好調に比例し、従業員への還元も拡大中だ。

07年3月期の平均年間給与を比較すると、日産自動車の723万円(41.5歳平均)やホンダの830万円(同44.0歳)に対し、デンソーは845万円(同40.2歳)。完成車メーカーよりも、部品メーカーのデンソーのほうが年収が高いのだ。

刈谷市にはほかにも、アイシン精

機や豊田自動織機、トヨタ紡織など工場企業中心にトヨタグループ8社が本社や工場、研究所を構えている。その生産を支える2次、3次のサプライヤー(部品会社)まで含めれば、裾野はさらに広がる。

トヨタの政治力(?)からか、東海環状自動車道や伊勢湾岸自動車道をはじめ、05年の愛知万博を前に、高速交通網が相次いで開通した。グループがビジネスをするうえでインフラ基盤は抜群だ。これら優良企業を抱えた刈谷市は、国の財政支援を受けない不交付団体の座を、もう40年以上も維持している。

所得県内トップの三好町 成長期待も最高ランク

西三河地域で目立つのは豊田市や刈谷市ばかりではない。05年の納税者1人当たり課税対象所得で県内トップクラスに入るのが、三好町だ。成長期待度は刈谷市と並ぶ、最高のSランクに輝いている(上表)。

三好町にはいまだ工場せず、小粒でもキラリと光る会社が存在する。本社・工場を構える「シンテックホズミ」もそんな会社の一つだ。

シンテックホズミの発足は92年9月。同じ神星グループであり、自動車部品製造の旧・保寿美工業と、情報加工処理の旧・神光マイクロが合併してできた会社だ。トヨタ本体が

